

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1493200107
法人名	社会福祉法人 幸済会
事業所名	高齢者グループホーム かわしまの里
訪問調査日	平成21年6月24日
評価確定日	平成21年7月23日
評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん 株式会社フィールズ

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成 21 年 7月 3日

【評価実施概要】

事業所番号	第1493200107号
法人名	社会福祉法人 幸済会
事業所名	高齢者グループホーム かわしまの里
所在地	横浜市旭区川島町1882-1 (電話) 045-372-6900

評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん株式会社フィールズ		
所在地	藤沢市鵠沼橋1-2-4 クゲヌマファースト3F		
訪問調査日	平成21年6月24日	評価確定日	平成21年7月23日

【情報提供票より】(平成 21年 5月 22日事務所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19年 6月 1日			
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18人	
職員数	19人	常勤 9人	非常勤 10人	常勤換算

(2) 建物概要

建物構造	(木造準耐火構造)造り		
	2階建ての	1~2階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	5,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	269,000 ~ 273,000円	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	150 円	昼食	350 円
	夕食	400 円	おやつ	150 円
	または1日当たり 1,050 円			

(4) 利用者の概要 (5月22日 現在)

利用者人数	16 名	男性	6 名	女性	10 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名		
要介護3	6 名	要介護4	5 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 83 歳	最低	71 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	東川島診療所 牧野記念病院 エンドウ歯科
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは相鉄線鶴ヶ峰駅から徒歩10分程の所にある柗谷公園に面した設立3年目のグループホームです。運営法人の幸済会は東川島診療所の院長を理事長とする社会福祉法人で、平成5年特別養護老人ホームを開設以来、当ホームは11件目の介護施設です。当法人の「温かい心、冷たい頭、優れた技術」を基盤とした理念を認識し、「ゆっくり、一緒に、楽しく」を当ホームの理念として利用者の支援を実践しています。年間50回の勉強会が企画される等職員の研修環境は充実しています。ホームの目の前に大きな公園があり、そこで開催される地域の行事への参加や公園を訪れる保育園児との挨拶を通じて地域との交流は深めています。運営推進会議は2ヶ月に1回定期的に開催されており、委員の尽力もあり地域のボランティアグループとの定期的な交流が実現しています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>1)運営に関する家族等意見の反映...ホームのマニュアルに従って家族の声や対策を記録し共有化する事が期待されます。2)介護計画の見直し...定期的に見直し、状況の変化の場合は介護計画の修正を実施しています。3)災害対策...火災を想定した利用者の避難訓練を実施しています。今年度は地域の消防団との合同演習を検討しています。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価は常勤職員を中心に話し合い、その結果をホーム長とユニット長が取りまとめています。外部評価・自己評価は日常業務を振り返る機会でも有りますので、非常勤職員も参加できるような工夫が期待されます。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は2ヶ月毎に開催されています。委員の理解と協力が進み地域の行事の周知をはじめ、オブザーバー(ケアプラザ職員)による地域の催しものや習い事の案内により、利用者の外出機会が増えています。民謡ボランティアの定期訪問や地域の保育園児との定期交流が実施されています。なお、最近ホームでの看取りの体験談を推進会議で報告し委員の理解を得ています。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族の意見・苦情等への対応窓口については、重要事項説明書に明記されています。その他の要望などは直接に利用者や家族との面談の際に注意深く聞いています。しかし、意見、要望等に関する記録には至っていません。作成されているマニュアルに沿って内容を記録し職員による共有化が期待されます。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地元の自治会への加入や運営推進会議の定期的な開催により、地域社会との交流・定着化は確実に進んでいます。ホームの目の前が大きな旭区柗谷公園である事から、地域で開催される防災訓練、清掃活動、夏祭りなどへ参加することで地域との交流が着実に進んでいます。ホームの敷地内にある家庭菜園の手入れもご近所の方が手伝って下さるなど日常生活においても良い関係が築かれています。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念を理解し、「ゆっくり、一緒に、楽しく」をホームの基本方針(理念)として利用者を支援しています。梶谷公園に近い立地条件を活かし地域の皆様との交流に力を入れています。その成果はボランティアとの定期的な交流に表れています。		制度改正後のグループホームとして望ましい方向での運営がされていますので、法人の理念に事業所独自の地域性を重要視した理念を職員参加で作られる事が期待されます。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人理念及びホームの運営方針は事務所に大きく掲示されており、日常の支援業務の於ける利用者への対応の中で活かされています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの目の前に大きな公園が有り、そこで実施される地域の行事(消防訓練、夏祭り等)への参加や缶拾い、公園に訪れる保育園児との挨拶や交流を通じて地域との交流を深めています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は常勤職員を中心にミーティング形で話し合い、その結果をホーム長とユニット長がまとめています。非常勤職員の参加までには至っていません。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は開設以来、2ヶ月毎にホームの事務所にて開催されています。委員の協力もあり、地域防災計画の周知、ボランティアによる民謡、雛祭りコンサートの開催、近隣保育園との定期交流等地域との交流が定着化しています。今後は災害時の対策に備え、ホームと地域の消防団との合同による避難訓練を検討しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区の福祉保健センターが主催する「地域支え合い連絡会」の構成員として参加し、自治会、地域社会福祉協議会、ボランティアグループ、ケアプラザの方々との交流を通じて、地域の各種情報を入手し、ホームの運営、サービスの改善に活用しています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の事故や体調不良のときはホーム長より直接電話にて家族に報告しています。平常時における家族への連絡は毎月の請求時に行う連絡の際、日々の利用者の様子、行事予定や写真を添付しお知らせしています。社員の異動等については面会時に報告する事としています。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書にはホーム長及び外部機関への苦情受付窓口が明記されています。また、職員が受け付けた苦情等の処理については、「マニュアル」が作成されています。しかし、口頭にて処理される事が多く、記録には至っていません。		苦情等の受付マニュアルに記載されているとおり、記録簿を作成し苦情・要望等を記録に残し、その記録は職員間で共有化する事により、一層の改善が期待されます。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ホーム開設以来、常勤職員の人事異動はありません。職員とは常に意思疎通を図り、離職に繋がるような事態が最小限となるよう配慮しています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	同法人では、法人内研修として毎週金曜日に年間50日の勉強会を企画し、全職員が参加できる様配慮しています。21年度は外部講師による講習の機会も増やしています。当ホームからも積極的に参加し、受講後は研修レポートを提出しています。なお、時間外手当を付与しています。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他のグループホーム職員との意見交換を実施し参考にしています。また、旭区が計画する「グループホーム連絡会」や「地域支え合い連絡会」にもホーム長が出席、情報交換を行い、ホーム運営の参考にしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>事前の見学をせず入居した方で馴染むのが難しかった例があります。利用者には入所前に、必ず見学に来ていただき日々の雰囲気説明しています。使い慣れた物の持込や家族の面会等、利用者が安心できる環境づくりに気を配っています。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者の生活歴や家族の話をもとに参考にする共に、利用者本人との対話の中から得意な事を聞き出す様努めています。その結果食事作りや土いじりなど好きな事を把握し、一緒にできるよう配慮しています。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員は「何処か行きたいところはありませんか?」「何か不満はありませんか?」など対話の時間を多く作って意向を汲み取っています。把握が困難な方の場合には家族から聞いたり、表情やしぐさから察知しています。その結果はADL状況確認書、個人別介護シートなどに記載され共有化されています。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画は利用者や家族、職員の意向を反映して作成しています。呼吸苦の観察や夜間の体位交換など医師の指示も取り入れた内容となっています。現在、職員1人が3名の利用者の介護計画原案を担当する方式に改め、チームの意見や利用者の意向がより反映されています。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は、3～6ヶ月おきに一人ひとりの状況に応じて作成されています。その他、状態に変化のある場合には随時プランの見直しを行っています。介護計画の変更を行う際には、計画作成担当者が赤字でモニタリングの結果を記入して、現状に即した介護計画の作成に努めています。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	訪問看護による医療連携体制が整えられており、在宅酸素療法や留置カテーテルなどの医療依存度の高い利用者への対応も行っています。地域からの認知症の介護相談や介護保険の申請についての相談にも応じています。訪問理美容の他、数名は希望の美容院に送迎支援しています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望のかかりつけ医となっています。また、法人理事長であり協力医療機関でもある東川島診療所には、管理者より毎日、身体状況や精神状況の連絡や依頼事項の報告が行われており十分な連携が取られています。その他のかかりつけ医の場合にも手紙などを通じて支援、連携しています。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホーム入居時に「入居者の重度化した場合における対応に係る指針」に沿って説明しています。重度化した場合にはかかりつけ医、家族、ホーム長で話し合う機会を持ち、ホームで出来る最大限の支援をしています。酸素や吸引器も整備されており、昨年度、看取りの実績があります。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護や利用者に対する接遇方法は勉強会を開いて、職員間の相互チェックを行っています。個人情報は事務所内のカギのかかるキャビネットに保管されています。ケース記録の記入も利用者へ配慮して少し離れた場所で行っており、排泄介助もさりげなく行われています。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行事の日以外は、大まかに午前は散歩、午後は歌やレクリエーションなどを中心に行っています。希望を聞いて室内にいる事を好まれる方など、自由に過ごしています。ホームで行っている体操への参加も利用者の希望に沿って支援しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	平日は食材業者から、届けられた食材を職員が工夫して調理しています。土、日曜は食べたいものをリクエストしてもらったり、外出に行く事もあります。食事形態も粥、刻みなど利用者の状況を配慮して、利用者は調理や配膳、下膳なども職員と一緒にしています。職員も同じテーブルで食事をとりながらさりげなく支援しています。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴支援は一人ひとり行っています。利用者の状況により職員2人介助での支援も行っています。入浴の曜日は特に決まっておらず時間は朝～16時の間に行っています。拒否のある場合も、日を変えて支援しています。最低でも週2～3回は入浴してもらえるように配慮しています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	1泊旅行やいちご狩り、クリスマス会や、法人内のホーム記念祭りやバーベキュー大会への参加も行っています。日課として、カーテンを開ける係の人、日めくり担当の方もいます。ホームの菜園で出来たトマトなどの収穫や俳句、カルタ、洗濯たたみやホームで飼っている犬の世話などの楽しみ事の支援をしています。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には、ほぼ毎日、車いすの方も一緒にお散歩に出掛けています。すぐ前の櫛谷公園で保育園児や近隣住民と挨拶を交わしたり、交流しています。ドライブやホームセンターやスーパーなどへの買い物支援も行っています。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	周辺は交通量も多いことから家族に説明して玄関部分は施錠しています。建物内はエレベーターも含めて自由に行き来ができます。利用者の安全に配慮して、居室にセンサーを付けている方もいます。職員は利用者の外出したい素振りを見逃さず、散歩に誘ったりしています。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホームはオール電化です。本年度は全利用者が参加し非難訓練を実施しました。法人で年2回救命講習を実施しておりホーム長はその講師を務めています。地域の避難訓練にも参加しています。ホーム長は運営推進会議を通じて地域と連携した訓練の実施の働きかけています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリーや塩分などバランスのとれた食事が提供されています。食事量、水分摂取量、尿量などチェック表に記載して職員間で共有化を図っています。その他、年2回協力医療機関での健康診断を行っています。食事形態や代替え食の提供も一人ひとりに合わせて行っています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内はバリアフリーです。手作りの日めくりカレンダーや文字盤の大きな時計もあります。トイレや浴室も清潔で十分な広さがあります。リビングにはテーブルやソファがあり、絵画や季節の花が飾られた明るい造りです。すぐ前にある梶谷公園の緑もきれいです。利用者はホームで飼っている犬の面倒をみたり、思いおもいの場所でくつろいでいます。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室ではベッドの方、布団の方もいます。特に危険なもの以外は制限なく持ち込んでもらっています。テレビや家族の写真、使い慣れたタンス、趣味の品、仏壇を持ちこんでいる方もいます。利用者はじゅうたんを敷いたり、思いおもいのスタイルで居心地良く過ごしています。		

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	高齢者グループホーム かわしまの里
(ユニット名)	芭蕉(ばしょう)
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横浜市旭区川島町1882-1
記入者名 (管理者)	林 光政
記入日	平成 21年 5月 15日

地域密着型サービス評価の自己評価票 1F 芭蕉

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「暖かい心、冷たい頭、優れた技能」の法人理念を確りと認識し、施設内の方針としても、ご利用者様が家庭的な雰囲気の中で「ゆっくり、一緒に、楽しく」過ごせる生活環境を整える。有する能力に応じた残存機能の維持、買い物やレクリエーション等を通じ、社会性の維持、回復を援助するという方針を掲げています。	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	スタッフルームに掲示し、スタッフ一人一人が共有出来るようにしています。	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族様には、入所前に説明しています。また、地域の方には開所前に内覧会を実施し、説明しています。玄関には理念などを掲示しており、現在では、運営推進会議等を通じ、施設での取り組み等を理解して頂いております。	
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣の方が気軽に立ち寄るとい事は無いが、目の前の公園ですれ違った方等等、積極的にご挨拶させて頂いてます。また、目の前の公園の定期清掃にご利用者様も参加したり、施設での音楽界に地域の方が来られた事もございます。	
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	目の前の公園を中心に、そこで行われる定期清掃や消防訓練に参加しています。また、運営推進会議を活用させて頂き、町内での行事等も教えて頂き、夏祭りなどにも参加しています。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	高齢者事業所として、今まで近くを通った方や電話等で介護施設等の相談を受け、特養への申し込みシステムや書類の配布など、行える範囲内の事は行ってあります。また、グループホームで働く職員として、法人本部の特別養護老人ホームで、地域の方に向けた講習会のお手伝いもさせて頂いております。。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は自己のサービスの振り返りとして、確りと確認していき、日々向上心を持って取り組んでいきたいと思えます。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	約2ヶ月に1度開催をしております。民生委員や保健活動推進員、地域包括支援センター職員等に施設内での活動状況、行事、事故、研修等を報告しています。運営推進会議を機に、定期的なボランティアの来所等も実現しています。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	近隣のケアプラザで行われる「地域支え合い連絡会」(3ヶ月1回開催)の構成員として参加させて頂き、地域での様々な情報を得ている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	法人内での勉強会や講習などに参加出来る範囲で行っております。、社外の講習会等は管理者は参加しているが、一般職員の外部講習の参加はそれ程多くは無い状況です。		一般職員にも、法人内での学びのみだけでなく、社外研修の機会も増やせる様に取組、管理者・一般職員の総合的なスキルアップに繋げていきたいと思えます。。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体で虐待の勉強会を定期的に行っている。また、管理者や中堅職員が新人への指導を個々に行っております。。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居に関しては、入居前に施設に足を運んで頂き、普段の様子や重要事項を説明し、ご利用者様・ご家族様が何を心配されているか、汲み取る様に心がけています。退所の際もご利用者様・ご家族様が安心して退所出来る様、十分な話し合いの時間を設けている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご利用者様が不満等を言いやすい様に、管理者を中心に話し合いの場を多く持つようにしています。また、契約書や入口に市町村の苦情窓口を記載している。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>事故や体調不良等は、管理者よりご家族様に電話連絡を行っています。また、毎月の請求時にご利用者様の日々のご様子や行事でのご様子を写真等も送付し、ご報告しています。金銭に関しては、領収書の写しと通帳の写しを添付しています。職員の移動、退職などに関しては面会時等に報告しています。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情窓口を設置し、契約書にも市町村の外部苦情窓口を明記しています。頂いたご意見等は、職員に周知し、必要時は早急な業務改善を行っています。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>年に1度、全職員が運営者との面談の機会を設けています。また、管理者は一般職員の意見を聴きやすい体制を心掛けています。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>要望等があれば、出来る範囲で検討し、入院の付添や手術日のご家族様代理など、調整できる範囲で行っています。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>人事異動は今までで一度も無く。離職は最小限に抑えられる様に心がけています。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修では、毎年年間計画をつくり、全職員参加出来る様に努めています。21年度は、外部講師の講習や回数も増やし毎週勉強会の機会を設けています。また、毎年介護研究発表会等にも参加しています。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホーム職員の意見交換の他、集団講習の場などを活用しています。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員が働きやすい様に、行える範囲の勤務調整等を行っています。また仕事の内容は勿論、仕事外の事でも交流会等を通じ、相談しやすい場を作っています。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	常勤職員への登用制度を設けています。また、本人の有する能力に応じた法人事業所内での人事異動も行っています。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご利用者様・ご家族様より相談・入所に至るまで、現状のニーズを理解し、ご利用者様が適応しやすい環境作りを心掛けています。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所してからご利用者様が施設に慣れるまでの不安や、入所後体調を崩したり、退所を検討していかない時の事など、早期の段階で話し合いを充分に持つように心掛けて、利用していく上での不安が無い様に努めております。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者様・ご家族様にとって、何が必要なのか相談しながら対応しています。また、困難事例等は、法人内での意見を伺い対応に努めています。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前に必ず、見学に来て頂き、日々の雰囲気などご説明させて頂いています。また、ご利用者様が心配される事が無い様に、今まで使用されていた物を持って来て頂いたり、必要であれば、ご家族様の面会の増減等、ご利用者様が安心できる環境を第一に考え実施しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事作りや清掃など、極力一緒に行うように心掛けています。また、仕事の内容に捉われず、日々の出来事など話す機会を多く持つ様に努めています。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様が何を求めているのか、ご家族様の意向等も汲み取った介護計画を作成し、ご家族様と極力しながら、ご本人様の支援をさせて頂いています。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時のご報告や、毎月の手紙の他、ご利用者様のご家族様に対する思い等があれば、電話等でお話して頂くか、代弁させて頂き、良い関係が維持出来る様に努めています。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間を特別設けず、面会に着やすい様にしている。また、馴染みの床屋等、ご利用者様の行きたい場所には、極力行ける様に調整しております。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個々の有する能力に応じたお手伝いを通じ、一人一人が孤立しないようにしています。また、ご利用者様同士が関わり合いが持てる様な、橋渡しの他、他者との関わりを好まれない方に対しては、職員が人間関係の構築に努めています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	<p>関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	退所時に細かな情報提供等はさせて頂いており、相談などがあればいつでも一緒に考えていきたいと思いますが、継続的な関わりが必要なご利用者様は今まで出ていないのが現状です。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1.一人ひとりの把握				
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	ご利用者様とのお話を多く持つ様に心掛け、ご意向をケアプランに反映出来る様にしています。		
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	入所前や入所時の聞き取りの他、必要であればご家族様やご面会の方等にお話を伺い、職員が共有出来る様にしています。		
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	日々の心身の状態等は、申し送りやケース記録等を通じ把握に努めています。また、日々主治医や看護婦に、そのご様子を報告書にてお伝えし、施設内の見解のみならず、総合的に把握できる仕組みとなっています。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	カンファレンスを介護支援専門員、管理者、担当職員で行い、ご家族様・ご本人様のご意向を伺い、関係者の意見を反映したケアプランを作成しています。		
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	入退院などがあつた際は勿論、ご利用者様の生活に変化があつた際はご家族様と相談し、プランの修正を行っております。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画書に伴い、日々個人のケース記録や連絡ノートに落としていおります。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご家族様のご都合が悪い場合等、職員で行える事は可能な範囲で実施しています(外出、通院、買い物など)。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域交流は、積極的に実施しています。入所者の中でも、現在でも民生委員との繋がりがある方もおり、法事等に一緒に参加されたりしてます。。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	特養等への申し込み等の支援を行っています。また、今までご利用していたサービス(デイ、特養、指定居宅など)の関係者と積極的に話を持つ様に心掛けています。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	具体的に今まで事例が無いが、運営推進会議等で地域包括支援センターの職員との交流もある為、今後のケースに役立てていきたいと思います。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	理事長が医師である為、自らご利用者様の健康管理をしている。緊急時には夜間でも診てもらえる事も出来ます。また、看護婦が週1回訪問しています。協力病院の診療所等には、職員が付き添いで定期的な健診を受けられる様に支援しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医療機関が精神科であり、病状の家族への説明や職員に対して適切な対応の指導等頂く事が出来ます。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	週に1回の訪問の他、定期的な受診の際の報告、また日々のご様子を毎日書類にて報告し、状況の変化を共有しています。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院者が出た際は、ほぼ毎日面会に伺い、状況の変化が無いか、看護師や医師に伺い、早期の退院が出来る様に努めています。また、状況の変化等があれば、ご家族様にもご報告しています。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所契約時に、重度化した場合における指針について、ご説明し、同意書を頂いています。必要が生じた場合は、選択肢を示し、ご本人様・ご家族様にとって、より良い方向に向かう様支援しています。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	入所者には、特別養護老人ホームへの申し込みを勧めています。また、施設内で行える範囲の状態であれば、看取りケアも実践しております。。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	特養への入所に伴う退所の際は、グループホームでの日常のご様子や服薬状況など、直近の確認事項などをサマリー等を通じ、情報をお伝えしています。また、入所の際は、ご本人様が困惑しない様に、今まで使用していた愛着のある物等を積極的に持ち込んで頂き、極力ご本人様の生活に合わせる事を意識しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個人情報や接遇に関わる勉強会を実施し、声掛けや対応が慣れ合いにならない様に意識しています。記録類や職員間の伝達等は、ご利用者様の言動に注意しながら行っています。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>一人一人に合わせた言葉掛けを行っています。また、ご利用者様が意志決定が出来る様に出来るだけ多くの選択肢の中から選べる様にしています。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>日々ご利用者様の希望を伺いながら、出来る限り希望に沿った生活を送れるように支援しています。入浴や体操なども、一人一人希望が異なる為、無理強いはしないように注意しています。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>2ヶ月に1度、理美容の定期訪問があるが、今まで慣れ親しんだ行きつけの場所で行いたいと希望がある方に関しては、送迎など必要に応じた付き添いを実施しています。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>包丁などが扱えるご利用者様には、職員付き添いの元、調理も行って頂いています。また、その他の方に関しても、配膳や下膳、テーブル拭き等ご利用者様の状態に応じた協力をして頂いています。メニューに関しても、ご利用者様の意向を伺いながら、決める努力もしています。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>嗜好品やおやつ等は、ご家族様と相談させて頂き、一人一人にご希望に沿いながら支援しています。晩酌されている方もおりますが、主に行事の時等にご希望の方には楽しめる様に努めています。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄表を活用し、一人一人の排泄状況を把握し、各々に合った声掛け・誘導を実施しています		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日は特に決めていないが、時間帯においては昼間の入浴を実施しています。		夜間帯での入浴などは、希望があっても現状は困難な事が多いため、遅めの入浴を希望されるご利用者様には、極力夕方に行く等の配慮を行っていきたいと思います。また、今後は夜間ケア加算も含め、3人夜勤を検討しており、意向は夜間入浴も可能かと思われます。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼夜逆転傾向のご利用者様等も含め、出来るだけご本人様の今までの暮らしを壊さない様な支援をしています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人一人行える事が異なる事を認識し、それぞれに応じた役割分担を意識しています。また、生活歴などからも得意な物、好きな物を把握し、ご本人様に喜んで頂ける場を出来るだけ多く提供出来る様にしています。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が行える方に関しては、ご家族様とお話をして持って頂いています。また、管理が行えない方に関しても、買い物の際に職員付き添いの元、支払って頂いたり、お釣りを受け取って頂いたりという経験を心掛けています。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎月の行事の他、天気の良い日は公園の散歩を日課とし、希望者等には、床屋や買い物、ドライブ等の気分転換も行える様にしています。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	行事の他、個人の法事等、ご家族様や民生委員の協力の元、ご希望があれば、実施出来る様にしています。		外食レクが今まで、回転寿司だけなので、今後その他の外食レクなども検討していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望がある際は、電話の使用・手紙のやり取りは支援しています。また、贈り物等が届いた際も、電話を勧めたり、手紙の代筆を行ったり支援しています。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間等は特に設けず、気軽に来所して頂ける様にしています。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で、身体拘束をしないケアに取り組んでおり、今まで点滴などその方の身体に関わる事以外は行っておりません。また、その様な際もご家族様のご了承を頂いております。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は、交通上のトラブルも含め常に施錠しています。その為、施設内は少しでも閉鎖感を無くす様に心掛け、事務所・台所等扉を設けていない作りとなっております。玄関の施錠に関しては、ご家族様にもご理解を頂いています。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜を問わず、居室内で過ごす方に関しては、ご本人様が不快感を抱かない様に気を配りながら、定期的な訪室をしています。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ご本人様の管理能力や職員の支援により、使用出来るものは基本的に制限をしておりません。ただし、最悪な状況を予見し、ご家族様や主治医と相談し、遠慮して頂くケースもございます。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットを職員間で共有する様に心掛け、事故を起こさない努力を第一としています。また、事故が起きた際も最小限度に留まる様に、マニュアルの活用や勉強会、救命講習等にも積極的に参加しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全職員を対象とした救命講習を年2回実施しています。また、毎週勉強会を実施し、介護職員のスキルアップに努めています。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	建物はガスを使用せず、オール電化にしています。また、消防設備や水回りなどは業者による定期的な点検を継続して実施しています。近所で行われる防災訓練には職員が参加し、施設内でも全ご利用者様を対象とした避難訓練を実践しております。		今後は、消防署立会いの訓練や地域と連携した訓練も検討していきたいと考えております。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	事故一つとっても、防止対策を確りと検討し、必要に応じご家族様に相談し、その人らしい暮らしを目指しております。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々の様子観察と申し送りの重要性を職員一人一人が確りと認識しています。また、昼夜問わずご利用者様の体調変化があれば、管理者に連絡する体制をとっており、必要に応じ管理者より医師に指示を仰いでおります。また、毎日精神状況と身体状況を主治医に報告しております。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の一覧を全職員が目を通せる体制を取っており、臨時の薬など内容に変更があった際は、伝達ノート・申し送り等で情報の共有化を図っています。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄表を活用し、日々の排便状況を把握し、申し送り等で情報を共有しています。便因が確認出来る際は、水分や運動等、必要に応じ下剤等で調整しています。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の嗽、歯磨きを声掛け・誘導にて実施しています。義歯等は、夜間帯に預かり洗浄しています。また、服薬時等に口腔内の観察をするように心掛け、異常が見られた際は、主治医に報告したり、必要に応じ歯科受診を行っております。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は毎日チェック表にて管理しています。また、形態・代替え食等も一人一人に合わせ実施しています。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	職員やご利用者様の嗽、手洗いの習慣を強化しており、また感染が予見できる場合は、早い段階で受診し最小限に食い止める努力をしています。ご家族様にも、早期の段階で施設での対応の書面を送っております。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は外注業者に委託しており、安全な物を提供してもらっています。新聞に取り上げられる食材などに関しては、迅速に業者に安全の確認をしています。調理道具等は、夜間帯に熱湯消毒・アルコール除菌等を実施している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りは、鉢等を置く様に心掛けており、また外の花壇にはご家族様ご協力の元、花や野菜等も植えている状況です。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じて、花や飾り付けを行い、その時々にあった雰囲気を感じて頂ける様にしています。また、施設内の殆どの部分が自由に出入り出来る様な作りになっている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になるスペースは居室となってしまいますが、職員との二人きりでの散歩等状況に応じた対応をしています。また、リビングのソファ等でご利用者様同士が楽しめる様な工夫をしています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを 活かして、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている	今まで使い慣れた物や愛着のある物は危険でない限り、全 て持ち込みを許可しています。入所前の生活スタイルを大切 にしています。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換 気に努め、温度調節は、外気温と大きな差が ないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめ に行っている	毎朝の職員による換気や、日々の衣類調整・空調調整を一 人一人に合わせ行っています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし て、安全かつできるだけ自立した生活が送れ るように工夫している	建物は殆どの部分がバリアフリーとなっており、扉を殆ど設置 していない為、お一人お一人気兼ね無く生活出来る作りにな っています。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る	居室やトイレなど、解り易く表示する事で混乱が少なくなる様 に努めています。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている	外回りを一緒に清掃したり、植えてある花を観賞したり、育て る支援をしています。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		ほぼ全ての利用者の
			利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		ほぼ全ての家族と
			家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、活き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ご利用者様の日々のご様子等を毎日、協力医療機関にFAXしており、主治医や看護婦と情報を共有する事により、早期の異常発見に努めています。目の前の公園を利用し、日々の散歩に留まらず、そこで実施される行事や定期清掃、防災訓練などご利用者様と一緒に様々な体験をしています。法人全体での外出(外泊)レクリエーションが充実しており、毎狩りや七夕、温泉など今まで行けなかった場所等喜んで頂いております。なかなか面会に来られないご家族様に変わり、一緒に買い物に行ったり、馴染みの床屋に行ったり、協力病院外でも受診を行ったりと、ご家族様のご負担も考慮した対応を行える範囲で実施しています。また、毎月の月報に普段のご様子を報告すると共に、写真を添えたりしてお送りしています。職員は、毎週法人主催の勉強会に参加し、日々介護職としてのスキルアップに努めております。ご家族様、ご本人様のご意向があれば、施設での看取りケアも実践しています。特別な医療行為が発生しない限りは、毎日の主治医への報告と、週に1度の訪問看護を通し、施設で行える範囲の事は積極的に行ってまいります。

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	高齢者グループホーム かわしまの里
(ユニット名)	一茶(いっさ)
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横浜市旭区川島町1882-1
記入者名 (管理者)	林 光政
記入日	平成 21年 5月 15日

地域密着型サービス評価の自己評価票 2F 一茶

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「暖かい心、冷たい頭、優れた技能」の法人理念を確りと認識し、施設内の方針としても、ご利用者が家庭的な雰囲気の中で「ゆっくり、一緒に、楽しく」過ごせる生活環境を整える。有する能力に応じた残存機能の維持。買い物やレクリエーション等を通じ、社会性の維持、回復を援助するという方針を掲げています。	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	スタッフルームに掲示し、スタッフ一人一人が共有出来るようにしています。	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族様には、入所前に説明しています。また、地域の方には開所前に内覧会を実施し、説明しています。玄関には理念などを掲示しており、現在では、運営推進会議等を通じ、施設での取り組み等を理解して頂いております。	
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣の方が気軽に立ち寄るという事はないが、目の前の公園ですれ違った方等など、積極的にご挨拶させて頂いてます。また、目の前の公園の定期清掃にご利用者様も参加したり、施設での音楽界に地域の方が来られた事もございます。	
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	目の前の公園を中心に、そこで行われる定期清掃や消防訓練に参加しています。また、運営推進会議を活用させて頂き、町内での行事等も教えて頂き、夏祭りなどにも参加しています。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	高齢者事業所として、今まで近くを通った方や電話等で介護施設等の相談を受け、特養への申し込みシステムや書類の配布など、行える範囲内の事は行ってあります。また、グループホームで働く職員として、法人本部の特別養護老人ホームで、地域の方に向けた講習会のお手伝いもさせて頂いております。。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は自己のサービスの振り返りとして、確りと確認していき、日々向上心を持って取り組んでいきたいと思ひます。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	約2ヶ月に1度開催をしてあります。民生委員や保健活動推進員、地域包括支援センター職員等に施設内での活動状況、行事、事故、研修等を報告しています。運営推進会議を機に、定期的なボランティアの来所等も実現しています。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	近隣のケアプラザで行われる「地域支え合い連絡会」(3ヶ月1回開催)の構成員として参加させて頂き、地域での様々な情報を得ている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	法人内での勉強会や講習などに参加出来る範囲で行っております。、社外の講習会等は管理者は参加しているが、一般職員の外部講習の参加はそれ程多くは無い状況です。		一般職員にも、法人内での学びのみだけでなく、社外研修の機会も増やせる様に取組、管理者・一般職員の総合的なスキルアップに繋げていきたいと思ひます。。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体で虐待の勉強会を定期的に関いている。また、管理者や中堅職員が新人への指導を個々に行っております。。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居に関しては、入居前に施設に足を運んで頂き、普段の様子や重要事項を説明し、ご利用者様・ご家族様が何を心配されているか、汲み取る様に心がけています。退所の際もご利用者様・ご家族様が安心して退所出来る様、十分な話し合いの時間を設けている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご利用者様が不満等を言いやすい様に、管理者を中心に話し合いの場を多く持つようにしています。また、契約書や入口に市町村の苦情窓口を記載している。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>事故や体調不良等は、管理者よりご家族様に電話連絡を行っています。また、毎月の請求時にご利用者様の日々のご様子や行事でのご様子を写真等も送付し、ご報告しています。金銭に関しては、領収書の写しと通帳の写しを添付しています。職員の移動、退職などに関しては面会時等に報告しています。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情窓口を設置し、契約書にも市町村の外部苦情窓口を明記しています。頂いたご意見等は、職員に周知し、必要時は早急な業務改善を行っています。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>年に1度、全職員が運営者との面談の機会を設けています。また、管理者は一般職員の意見を聴きやすい体制を心掛けています。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>要望等があれば、出来る範囲で検討し、入院の付添や手術日のご家族様代理など、調整できる範囲で行っています。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>人事異動は今までで一度も無く。離職は最小限に抑えられる様に心がけています。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修では、毎年年間計画をつくり、全職員参加出来る様に努めています。21年度は、外部講師の講習や回数も増やし毎週勉強会の機会を設けています。また、毎年介護研究発表会等にも参加しています。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホーム職員の意見交換の他、集団講習の場などを活用しています。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員が働きやすい様に、行える範囲の勤務調整等を行っています。また仕事の内容は勿論、仕事外の事でも交流会等を通じ、相談し易い場を作っています。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	常勤職員への登用制度を設けています。また、本人の有する能力に応じた法人事業所内での人事異動も行っています。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご利用者様・ご家族様より相談・入所に至るまで、現状のニーズを理解し、ご利用者様が適応しやすい環境作りを心掛けています。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所してからご利用者様が施設に慣れるまでの不安や、入所後体調を崩したり、退所を検討していかない時の事など、早期の段階で話し合いを充分に持つように心掛けて、利用していく上での不安が無い様に努めております。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者様・ご家族様にとって、何が必要なのか相談しながら対応しています。また、困難事例等は、法人内での意見を伺い対応に努めています。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前に必ず、見学に来て頂き、日々の雰囲気などご説明させて頂いています。また、ご利用者様が心配される事が無い様に、今まで使用されていた物を持って来て頂いたり、必要であれば、ご家族様の面会の増減等、ご利用者様が安心できる環境を第一に考え実施しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事作りや清掃など、極力一緒に行うように心掛けています。また、仕事の内容に捉われず、日々の出来事など話す機会を多く持つ様に努めています。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様が何を求めているのか、ご家族様の意向等も汲み取った介護計画を作成し、ご家族様と極力しながら、ご本人様の支援をさせて頂いています。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時のご報告や、毎月の手紙の他、ご利用者様のご家族様に対する思い等があれば、電話等でお話して頂くか、代弁させて頂き、良い関係が維持出来る様に努めています。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間を特別設けず、面会に着やすい様にしている。また、馴染みの床屋等、ご利用者様の行きたい場所には、極力行ける様に調整しております。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個々の有する能力に応じたお手伝いを通じ、一人一人が孤立しないようにしています。また、ご利用者様同士が関わり合いが持てる様な、橋渡しの他、他者との関わりを好まれない方に対しては、職員が人間関係の構築に努めています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所時に細かな情報提供等はさせて頂いており、相談などがあればいつでも一緒に考えていきたいと思いますが、継続的な関わりが必要なご利用者様は今まで出ていないのが現状です。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様とのお話を多く持つ様に心掛け、ご意向をケアプランに反映出来る様にしています。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前や入所時の聞き取りの他、必要であればご家族様やご面会の方等にお話を伺い、職員が共有出来る様にしています。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の心身の状態等は、申し送りやケース記録等を通じ把握に努めています。また、日々主治医や看護婦に、そのご様子を報告書にてお伝えし、施設内の見解のみならず、総合的に把握できる仕組みとなっています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	カンファレンスを介護支援専門員、管理者、担当職員で行い、ご家族様・ご本人様のご意向を伺い、関係者の意見を反映したケアプランを作成しています。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入退院などがあつた際は勿論、ご利用者様の生活に変化があつた際はご家族様と相談し、プランの修正を行っております。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画書に伴い、日々個人のケース記録や連絡ノートに落としていおります。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご家族様のご都合が悪い場合等、職員で行える事は可能な範囲で実施しています(外出、通院、買い物など)。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域交流は、積極的に実施しています。入所者の中でも、現在でも民生委員との繋がりがある方もおり、法事等に一緒に参加されたりしてます。。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	特養等への申し込み等の支援を行っています。また、今までご利用していたサービス(デイ、特養、指定居宅など)の関係者と積極的に話を持つ様に心掛けています。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	具体的に今まで事例が無いが、運営推進会議等で地域包括支援センターの職員との交流もある為、今後のケースに役立てていきたいと思います。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	理事長が医師である為、自らご利用者様の健康管理をしている。緊急時には夜間でも診てもらえる事も出来ます。また、看護婦が週1回訪問しています。協力病院の診療所等には、職員が付き添いで定期的な健診を受けられる様に支援しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医療機関が精神科であり、病状の家族への説明や職員に対して適切な対応の指導等頂く事が出来ます。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	週に1回の訪問の他、定期的な受診の際の報告、また日々のご様子を毎日書類にて報告し、状況の変化を共有しています。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院者が出た際は、ほぼ毎日面会に伺い、状況の変化が無いか、看護師や医師に伺い、早期の退院が出来る様に努めています。また、状況の変化等があれば、ご家族様にもご報告しています。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所契約時に、重度化した場合における指針について、ご説明し、同意書を頂いています。必要が生じた場合は、選択肢を示し、ご本人様・ご家族様にとって、より良い方向に向かう様支援しています。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	入所者には、特別養護老人ホームへの申し込みを勧めています。また、施設内で行える範囲の状態であれば、看取りケアも実践しております。。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	特養への入所に伴う退所の際は、グループホームでの日常のご様子や服薬状況など、直近の確認事項などをサマリー等を通じ、情報をお伝えしています。また、入所の際は、ご本人様が困惑しない様に、今まで使用していた愛着のある物等を積極的に持ち込んで頂き、極力ご本人様の生活に合わせる事を意識しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個人情報や接遇に関わる勉強会を実施し、声掛けや対応が慣れ合いにならない様に意識しています。記録類や職員間の伝達等は、ご利用者様の言動に注意しながら行っています。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>一人一人に合わせた言葉掛けを行っています。また、ご利用者様が意志決定が出来る様に出来るだけ多くの選択肢の中から選べる様にしています。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>日々ご利用者様の希望を伺いながら、出来る限り希望に沿った生活を送れるように支援しています。入浴や体操なども、一人一人希望が異なる為、無理強いはしないように注意しています。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>2ヶ月に1度、理美容の定期訪問があるが、今まで慣れ親しんだ行きつけの場所で行いたいと希望がある方に関しては、送迎など必要に応じた付き添いを実施しています。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>包丁などが扱えるご利用者様には、職員付き添いの元、調理も行って頂いています。また、その他の方に関しても、配膳や下膳、テーブル拭き等ご利用者様の状態に応じた協力をして頂いています。メニューに関しても、ご利用者様の意向を伺いながら、決める努力もしています。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>嗜好品やおやつ等は、ご家族様と相談させて頂き、一人一人にご希望に沿いながら支援しています。晩酌されている方もおりますが、主に行事の時等にご希望の方には楽しめる様に努めています。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄表を活用し、一人一人の排泄状況を把握し、各々に合った声掛け・誘導を実施しています		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日は特に決めていないが、時間帯においては昼間の入浴を実施しています。		夜間帯での入浴などは、希望があっても現状は困難な事が多いため、遅めの入浴を希望されるご利用者様には、極力夕方に行く等の配慮を行っていきたいと思います。また、今後は夜間ケア加算も含め、3人夜勤を検討しており、意向は夜間入浴も可能かと思われます。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼夜逆転傾向のご利用者様等も含め、出来るだけご本人様の今までの暮らしを壊さない様な支援をしています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人一人行える事が異なる事を認識し、それぞれに応じた役割分担を意識しています。また、生活歴などからも得意な物、好きな物を把握し、ご本人様に喜んで頂ける場を出来るだけ多く提供出来る様にしています。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が行える方に関しては、ご家族様とお話をして持って頂いています。また、管理が行えない方に関しても、買い物の際に職員付き添いの元、支払って頂いたり、お釣りを受け取って頂いたりという経験を心掛けています。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎月の行事の他、天気の良い日は公園の散歩を日課とし、希望者等には、床屋や買い物、ドライブ等の気分転換も行える様にしています。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	行事の他、個人の法事等、ご家族様や民生委員の協力の元、ご希望があれば、実施出来る様にしています。		外食レクが今まで、回転寿司だけなので、今後その他の外食レクなども検討していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望がある際は、電話の使用・手紙のやり取りは支援しています。また、贈り物等が届いた際も、電話を勧めたり、手紙の代筆を行ったり支援しています。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間等は特に設けず、気軽に来所して頂ける様にしています。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で、身体拘束をしないケアに取り組んでおり、今まで点滴などその方の身体に関わる事以外は行っておりません。また、その様な際もご家族様のご了承を頂いております。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は、交通上のトラブルも含め常に施錠しています。その為、施設内は少しでも閉鎖感を無くす様に心掛け、事務所・台所等扉を設けていない作りとなっております。玄関の施錠に関しては、ご家族様にもご理解を頂いています。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜を問わず、居室内で過ごす方に関しては、ご本人様が不快感を抱かない様に気を配りながら、定期的な訪室をしています。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ご本人様の管理能力や職員の支援により、使用出来るものは基本的に制限をしておりません。ただし、最悪な状況を予見し、ご家族様や主治医と相談し、遠慮して頂くケースもございます。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットを職員間で共有する様に心掛け、事故を起こさない努力を第一としています。また、事故が起きた際も最小限度に留まる様に、マニュアルの活用や勉強会、救命講習等にも積極的に参加しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全職員を対象とした救命講習を年2回実施しています。また、毎週勉強会を実施し、介護職員のスキルアップに努めています。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	建物はガスを使用せず、オール電化にしています。また、消防設備や水回りなどは業者による定期的な点検を継続して実施しています。近所で行われる防災訓練には職員が参加し、施設内でも全ご利用者様を対象とした避難訓練を実践しております。		今後は、消防署立会いの訓練や地域と連携した訓練も検討していきたいと考えております。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	事故一つとっても、防止対策を確りと検討し、必要に応じご家族様に相談し、その人らしい暮らしを目指しております。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々の様子観察と申し送りの重要性を職員一人一人が確りと認識しています。また、昼夜問わずご利用者様の体調変化があれば、管理者に連絡する体制をとっており、必要に応じ管理者より医師に指示を仰いでおります。また、毎日精神状況と身体状況を主治医に報告しております。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の一覧を全職員が目を通せる体制を取っており、臨時の薬など内容に変更があった際は、伝達ノート・申し送り等で情報の共有化を図っています。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄表を活用し、日々の排便状況を把握し、申し送り等で情報を共有しています。便因が確認出来る際は、水分や運動等、必要に応じ下剤等で調整しています。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の嗽、歯磨きを声掛け・誘導にて実施しています。義歯等は、夜間帯に預かり洗浄しています。また、服薬時等に口腔内の観察をするように心掛け、異常が見られた際は、主治医に報告したり、必要に応じ歯科受診を行っております。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は毎日チェック表にて管理しています。また、形態・代替え食等も一人一人に合わせ実施しています。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	職員やご利用者様の嗽、手洗いの習慣を強化しており、また感染が予見できる場合は、早い段階で受診し最小限に食い止める努力をしています。ご家族様にも、早期の段階で施設での対応の書面を送っております。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は外注業者に委託しており、安全な物を提供してもらっています。新聞に取り上げられる食材などに関しては、迅速に業者に安全の確認をしています。調理道具等は、夜間帯に熱湯消毒・アルコール除菌等を実施している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りは、鉢等を置く様に心掛けており、また外の花壇にはご家族様ご協力の元、花や野菜等も植えている状況です。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じて、花や飾り付けを行い、その時々にあった雰囲気を感じて頂ける様にしています。また、施設内の殆どの部分が自由に出入り出来る様な作りになっている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になるスペースは居室となってしまいますが、職員との二人きりでの散歩等状況に応じた対応をしています。また、リビングのソファ等でご利用者様同士が楽しめる様な工夫をしています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを 活かして、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている	今まで使い慣れた物や愛着のある物は危険でない限り、全 て持ち込みを許可しています。入所前の生活スタイルを大切 にしています。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換 気に努め、温度調節は、外気温と大きな差が ないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめ に行っている	毎朝の職員による換気や、日々の衣類調整・空調調整を一 人一人に合わせ行っています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし て、安全かつできるだけ自立した生活が送れ るように工夫している	建物は殆どの部分がバリアフリーとなっており、扉を殆ど設置 していない為、お一人お一人気兼ね無く生活出来る作り になっています。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る	居室やトイレなど、解り易く表示する事で混乱が少なくなる様 に努めています。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている	外回りを一緒に清掃したり、植えてある花を観賞したり、育て る支援をしています。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、活き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ご利用者様の日々のご様子等を毎日、協力医療機関にFAXしており、主治医や看護婦と情報を共有する事により、早期の異常発見に努めています。目の前の公園を利用し、日々の散歩に留まらず、そこで実施される行事や定期清掃、防災訓練などご利用者様と一緒に様々な体験をしています。法人全体での外出(外泊)レクリエーションが充実しており、毎狩りや七夕、温泉など今まで行けなかった場所等喜んで頂いております。なかなか面会に来られないご家族様に変わり、一緒に買い物に行ったり、馴染みの床屋に行ったり、協力病院外でも受診を行ったりと、ご家族様のご負担も考慮した対応を行える範囲で実施しています。また、毎月の月報に普段のご様子を報告すると共に、写真を添えたりしてお送りしています。職員は、毎週法人主催の勉強会に参加し、日々介護職としてのスキルアップに努めております。ご家族様、ご本人様のご意向があれば、施設での看取りケアも実践しています。特別な医療行為が発生しない限りは、毎日の主治医への報告と、週に1度の訪問看護を通し、施設で行える範囲の事は積極的に行ってまいります。